

機関番号：32686
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2008 ～ 2010
 課題番号：20710185
 研究課題名（和文） 社会秩序の再編過程における移民の役割：インドネシア・アチェ紛争の事例から
 研究課題名（英文） The Role of Migrants in Restructuring Social Order: the Case of Aceh Conflict
 研究代表者
 西 芳実（NISHI YOSHIMI）
 立教大学・AIIC・助教
 研究者番号：30431779

研究成果の概要（和文）：中央政府に対する分離独立運動が30年に及んだインドネシアのアチェ州を事例として、紛争の進展および和平後の復興過程における移民の役割を検討した。アチェの和平・復興過程が2004年スマトラ沖地震津波の被災と復興過程と同時に進展したことに着目し、「二重の復興過程」においてマレーシア在住のアチェ系住民が果たした役割に関して一般報道情報の資料を収集し整理し、分析した。

研究成果の概要（英文）：This project has examined the role of immigrants in the case of Aceh, where separatist movement from Indonesia lasted 30 years. In Aceh, process of peace making and reconstructing after conflict took place along with the process of recovery and rehabilitation after Indian Ocean Tsunami in 2004. This project focused on Acehenese community in Malaysia who played crucial roles in “dual recovery process” and gathered information from general media.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：エスニシティ、スマトラ沖地震津波、ナショナリズム、マレー世界、国民国家、平和構築、災害対応、難民

1. 研究開始当初の背景

国境を越えた人の移動や居留国と別に出身国を持つ人々の存在（たとえば中国系アメリカ人や在日フィリピン人労働者）については、(1)「移民問題」（居留国における国民統合上の問題）、あるいは(2)「ディアスポラ」（故地を失った人々）といった観点から従来捉えられてきた。また、冷戦後の状況と関連して、移住先で国民待遇を受けながら出身国の民族運動や政治運動に参加する人々の動

きは「遠隔地ナショナリズム」と名づけられ（ベネディクト・アンダーソン）、権利を主張し義務の遂行を免れる無責任な主体として評価されてきた。これらはいずれも、一人の人にとって拠り所となる故郷は一つであるとの考え方を前提にしており、このことが、ひとたび「故地」を離れると、その存在は居留国・出身国双方にとって「問題」と認識される状況を再生産しているといえる。

これに対して、近年、二つ以上の地域に対

してアイデンティティをもつ人々が登場し、出身国と居留国の双方に対して積極的に関与する事例が報告されている。また、植民地期や国民国家形成期においては、留学などで域外に拠点を置く「移民」が出身地域の民族主義運動の発展を促したことや、域外に出自を持つ「移民」が居留国の社会秩序の形成に大きな役割を果たしたことが指摘されている。これらはいずれも「移民」を出身国・居留国双方において積極的な貢献を果たしうる存在として評価する試みであるといえる。

2. 研究の目的

本研究は移民研究をめぐる上述の状況を踏まえて、移民を出身国と居留国双方の社会にとって積極的な貢献を果たしうる存在として評価する可能性を探ることを目的とした。具体的には、インドネシアからの分離独立運動により長年にわたり紛争地となり、2004年スマトラ沖地震津波の最大の被災地ともなったインドネシア・アチェ州を出身地としながらアチェ州域外に居留する人びと（アチェ域外居留民）に注目し、次の3つの観点から情報収集ならびに分析を行うことを通じて、居留国の社会秩序編成ならびに出身国／出身地の社会秩序編成において「域外居留民」が果たす役割を検討するための予備的な考察を行う。

- (1)アチェ域外居留民の居留国（マレーシア、インドネシア（ジャカルタ）、日本）における位置づけ
- (2)居留地におけるアチェ域外居留民に関連した結社・団体活動の把握
- (3)出身地／出身国におけるアチェ域外居留民の位置づけ

3. 研究の方法

インドネシア（ジャカルタ、メダン）、マレーシア（クアラルンプル）、日本（京都）の三地域を主要な調査地域とし、以下の3つの活動を順次進展させる。

(1) 文献調査とデータベースの作成

各地域の資料拠点を利用し、インドネシア・マレーシアで発行される定期刊行物（新聞・雑誌）の記事の中から、特定の分野やキーワード（外国人労働者、アチェ紛争、スマトラ沖地震津波、選挙権、強制送還）に関連した記事を抽出してデータベースを作成し、これらの分野や問題群についてそれぞれの地域社会でどのような議論が行われているか、その傾向を明らかにする。

(2) 現地専門家との意見交換

各地域の情報・研究拠点ならびに「アチェ域外居留民」を対象とした社会活動を行っている団体・機関を通じて現地専門家との意見交換を行い、「アチェ域外居留民」

に対してどのような具体的な取り組みがなされているか情報収集を行う。

(3) 関連するコミュニティに対する聞き取り調査

それぞれの地域における「アチェ域外居留民」に対する聞き取り調査を行い、居留地域社会とアチェ地域社会の双方に対する関わり方の傾向を分析する。

4. 研究成果

(1) 平成20年度

- ①アチェ域外居留民の位置づけを検討する準備として、インドネシアとマレーシアの社会編成の相違点ならびに2006年アチェ統治法がめざす社会秩序の特徴の整理（論文[6]）と、文学作品に描かれたアチェ・イメージの分析（論文[5]）をし、これを踏まえて海外出稼ぎインドネシア人（TKI）に関する文献の収集や2004年スマトラ沖地震津波の復興再建事業における社会秩序の変容についての予備的考察（論文[4]）を行なった。
- ②アチェ紛争や2004年スマトラ沖地震津波によって避難民・難民が増加した時期を中心に、海外出稼ぎインドネシア人に関する新聞記事（インドネシア語紙7紙ならびに英語紙1紙、2000年-2007年）をインドネシア国際問題戦略研究所で収集したうえで、これをデジタル化し、データベース作成の準備を進めた。
- ③海外出稼ぎインドネシア人を対象に情報発信を行っている雑誌編集部に聞き取り調査を行なったほか、2009年8月にクチン（マレーシア）で開催された国際マレーシア研究者会議に出席し、マレーシアにおける移民研究の現状把握ならびに現地専門家との意見交換を行なった。

(2) 平成21年度

- ①マレーシアにおけるインドネシア人像や、インドネシアにとってのマレーシアの役割を考察するもととなる論考をまとめた（その他[2]）また、2004年スマトラ沖地震津波以降、住居や生業の移動が日常的に行なわれる社会のあり方に対応するかたちでインドネシアで災害への対応がはかられていることを、(ア)ボランティア社会としての特性の顕在化（論文[3]）、(イ)域外の支援者の存在を前提にした災害対応（論文[2]）といった点に注目して整理した。さらに、2004年スマトラ沖地震津波の被災地となり、国際的な救援復興活動が行なわれたバンダアチェの被災者が、被災を契機に生まれた多文化的状況下でどのようにして自らの被災経験を表現し、被災後の社会づくりをめざしたかについて図書[3]（分担執筆）にまとめた。

- ②デジタル化した海外出稼ぎインドネシア人に関する新聞記事のうち、2004年分についてメタデータを付し、データベース作成の準備を進めた。
- ③国際シンポジウム「現代東南アジアにおける映画の介入」で口頭発表を行い、東南アジアの各国の文化的越境への対応について意見交換を行なったほか、オーストラリア国立大学から小林柔子氏を招聘してシンガポールの移民政策についての研究会を開催した。

(3)平成22年度

- ①アチェ紛争と2004年スマトラ沖地震津波に伴う人の移動と社会の再編に関連して、長年にわたる紛争と大規模自然災害の被災を経てインドネシア・アチェ州で域外居留民の存在を前提にした地方自治法が制定されたことの意義について論じた英語論文(図書[1])を発表したほか、アチェ紛争に伴う難民・域内避難民の状況からインドネシアの国民編成について考察した論考を発表した論考(図書[2])を発表した。
- ②流動性の高い社会における復興過程に関する研究発表を行った。スマトラの災害対応の事例を住居や生業の移動が日常的に行われている社会における復興過程としてその特徴を整理し、日本災害復興学会で発表した(学会発表[1])。
- ③前年度までに収集した海外出稼ぎインドネシア人に関する新聞記事にメタデータを付す作業を進めた。また、世界各地に展開する出稼ぎ者の状況を把握するために、地理情報と結びつけた形のデータ様式を作成した。あわせて、外国人学校が外国人労働者の社会統合に果たす役割についての予備的論考をまとめた(その他[1])。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

- [1] 西芳実 2011年「災害からの復興と紛争からの復興」『地域研究』11(2)、pp. 92-105。
【査読あり】
- [2] 西芳実 2010年「現代インドネシアの公正／正義：リスク社会における災害対応の観点から」、西尾寛治・山本博之編著『マレー世界における公正／正義概念の展開』(CIAS Discussion Paper No. 10) 京都大学地域研究統合情報センター、pp. 48-56。
【査読なし】
- [3] 西芳実 2009年「スマトラ沖地震・津波／インドネシア(2004年)：変革の契機としての自然災害」『アジア研ワールド・トレン

ド』165(2009年6月)、pp. 19-22。【査読なし】

- [4] 西芳実 2009年「自然災害と地域の再建：2004年インド洋大津波とバンダアチエの住宅再建」『すまいろん』89、pp. 29-33。【査読なし】
- [5] 西芳実 2008年「犠牲者の物語」を乗り越えて：「スルタンの杖」を知るために」『すばる』2008年5月号、集英社、pp. 129-136。
【査読なし】
- [6] 西芳実 2008年「2006年アチェ統治法の意義と展望：マレー世界のリージョナリズム」『地域研究』8(1)、pp. 116-127。【査読あり】

[学会発表](計6件)

- [1] 西芳実・山本博之 2010年「流動性の高い社会における復興：2009年西スマトラ地震における日本の人道支援の事例から考える」日本災害復興学会、神戸大学、2010年10月17日。
- [2] 西芳実 2010年「国境に生きる人々から見る東南アジアの政治変動：アチェの視点から」アジア政経学会西日本大会第3分科会、京都大学、2010年6月14日。
- [3] 西芳実 2010年「趣旨説明」・「流動性の高い社会における被災と復興」、パネル3「学術研究と人道支援—2009年西スマトラ地震で壊れたもの・つくられるもの」、第83回東南アジア学会研究大会、愛知大学、2010年6月7日。
- [5] 西芳実 2008年「インドネシア映画が描くバリ島爆弾テロ事件：『楽園への長い道(Long Road to Heaven)』(2007年)から」日本マレーシア研究会第17回研究大会、獨協大学、2008年12月7日。
- [6] 西芳実 2008年「インドネシア・スマトラ沖地震津波災害：紛争下の人道支援と災害対応」2008年度アジア政経学会全国大会共通論題1『アジアにおける自然災害と政治経済変動』神戸学院大学、2008年10月12日。

[図書](計3件)

- [1] Nishi Yoshimi. 2011. “Among Bangsa, Keturunan, and Daerah: Peace-Building and Group Identity in the Law on Governing Aceh, 2006”. YAMAMOTO Hiroyuki et al. eds. Bangsa and Umma. Kyoto: Kyoto University Press. pp. 166-182. (分担執筆)
- [2] 西芳実 2010年「インドネシアのアチェ紛争とディアスポラ」首藤もと子編『グローバル・ディアスポラ 2』明石書店、pp. 67-86。(分担執筆)
- [3] 西芳実 2010年「裏切られる津波被災者像：災害は私たちに何を乗り越えさせるの

か」林勲男編『自然災害と復興支援』（みんなく実践人類学シリーズ 1）明石書店、pp. 383-402。（分担執筆）

〔その他〕

マレーシアで発行されている日本語日刊紙『The Daily NNA』にマレーシアにおけるインドネシア系住民をめぐる問題の背景や現状に関わる下記の論考2点を発表した。

[1]2010 「サバ州にインドネシア人中学校—外国人労働者問題の解決に一步か」『The Daily NNA マレーシア版』（2010年8月30日号）、p.9。

[2]2010 「マレーシアとインドネシアの微妙な関係」『The Daily NNA マレーシア版』（2010年3月11日号）、p.12。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西 芳実 (NISHI YOSHIMI)

立教大学・AIIC・助教

研究者番号：30431779

(2) 研究分担者 該当なし

(3) 連携研究者 該当なし